

## 令和7年度 第26回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。  
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日時:令和7年11月22日(土) 10:00～

場所:山島コミュニティセンター

参加者:8名



- ◆ 地域コミュニティ組織では、地区独自でやりたいことができると考えています
- ◆ 全地区で地域コミュニティ組織が発足したので、今後は他地区との情報共有とレベルアップが重要となるのではないのでしょうか

(参加者)

モデル地区として令和2年から活動してきましたが、当時は「コミュニティ」という言葉も浸透しておらず、何をしたいかわからない状態でした。協働推進課と相談しながら進め、6年やってみてようやく理解できてきたところです。

主な活動として、市民提案型まちづくり事業で3件採択され、そのうち2つを継続しています。一つは「美しいまちづくり事業」で、公共施設の美化作業です。秋には約70名が参加しました。もう一つは「安全安心なまちづくり」で、防災防犯部会が中心となり防災訓練を行っています。

また、地域の特色として「山島の明日を考える集い」を60回以上継続しています。これは戦後間もなく始まったもので、かつては多様な人が集まり討議していましたが、現在は講演会形式へ変わって続けています。

昨年度からはワークショップ形式で地域課題を掘り下げています。今年は課題の一つである「世代間交流の場がない」という点を取り上げ、毎年開催している「ふれ愛山島」のコーナーに駄菓子屋やeスポーツ体験を新たに加えたことから、広い世代で交流できました。

協議会の良いところはトライアンドエラーができる点です。「失敗したら修正して次につながればいい」というスタンスで、課題解決に取り組んでいきます。

(市長)

世代間交流については、公民館時代から課題として出っていたのですか。

(参加者)

協議会ができたことで、表立って話し合う場が生まれたと思います。それまでは考える場がなかった部分があります。

(市長)

協議会という組織ができたことが、そのような思いも課題として出せる場となって、事業につながったということですね。

(参加者)

地域コミュニティ組織への移行による機能拡充は、従来の生涯学習に加え、組織独自でやりたいことを考える「プラスアルファ」ができる取り組みだと認識しています。

「協働のまちづくり」は全国的な動きで、多くの活動事例があります。以前は「生涯学習の集い公民館大会」で各館の活動報告をしていました。他地区の事例を参考にレベルアップすることも大事です。生涯学習のつどい自体は今月末にありますけれども、以前のように活動報告をするような形での関わりがなくなっています。協働推進課さんでやるかどうかはわかりませんが、活動がある程度定着したら、そうした機会があるといいと思いますが、どうでしょうか。

(市長)

山島地区はモデル地区ということで令和2年からですが、全地区で地域コミュニティ組織が発足して2年目に入りました。頑張っている皆さんが集まって取り組みを紹介し合う自慢大会のような場ができないか検討しています。

(参加者)

こういう取り組みは年齢も規模も関係なくそれぞれの団体の視点で研究、検討する必要があると思います。なかには研究発表などで全国大会などに行く話も聞きます。それぞれの組織がレベルアップするためにも、また人材のスキルアップのためにも、避けて通れない部分だと考えています。

- ◆ 旧集落だけでなく団地の方にも役員を依頼し、活動内容を見直しながら壮年会の維持を図っています
- ◆ 各団体同士の交流を増やしつつ、取り組みを効率化することも重要な役割です

(参加者)

「美しいまちづくり事業」について、10年ほど前から各種団体と連携し、公園等の清掃活動を行っています。

この事業を通じて、各団体が個別に行っていた活動を一つに集約しました。例えば、交通安全協会の通学路除草や壮年会の窓拭きを、同じ日の清掃活動としてまとめて実施しています。各団体の交流を増やしつつ、取り組みを効率化することも協議会の事業として大切だと感じています。

(市長)

各種団体の中でも、壮年会が減少している話を聞きますが、山島地区では何か工夫されていますか。

(参加者)

旧山島地区だけでなく、山島台の方にも役員をお願いし、加入促進につなげました。また、行事が少なかったので、フードドライブなどを始めています。「旅行で飲むだけ」というイメージを変え、地域コミュニティ組織をはじめ、地区行事に責任を持って携わっていく団体として活動することも大切だと思っています。

(市長)

山島地区は地域コミュニティ組織ができる前から地区全体として組織がしっかりしていると感じます。モデル地域として、人数も減らないよう取り組んでいただいたと感じています。

(参加者)

当初は地域コミュニティ組織を作る必要性に疑問があり、市に経緯や意図を確認しながら進めました。今あるものを作っていけばいいんですよと言われてましたが、何かできることはないかということで、各団体に「横串を刺す」ことを意識して進めました。もともと老人会、壮年会、青年会など各組織がしっかりしており、引き継ぎができていたのが良い方向に進んだ要因です。

ただ、少子高齢化の課題は深刻です。組織機能がしっかりしていても、絶対数が減れば成り立ちません。10年前の夏祭りの写真と比べると、子どもの数は大変少なくなっています。3年、5年先にはさらに拍車がかかるでしょう。今のうちに協議会としてできることをやるため、課題を掘り下げていきたいと考えています。

(市長)

「山島の明日を考える集い」やワークショップなど、将来を見据えて活動されているのは素晴らしいと思います。将来の山島地区をどうしていくかという視点は重要です。

◆ 少子高齢化の課題解決が必要ですが、人とのつながりで取り組みやすい土壌があります

(参加者)

少子化と合わせて、高齢化世帯への対策も必要です。80代が多く、買い物に行くにも車がない現状に対し、近いうちに具体的な取り組みが必要になるでしょう。他地域のような「便利タクシー」の仕組みが今後必要になってくると思います。買い物難民が出た際、市への要望だけでなく、地域コミュニティ協議会としても取り組まなければならないと考えています。

(市長)

各地区を回り課題を聞いていますが、地域コミュニティ組織を作ったからといって「お任せ」にはできません。市としても当然、さまざまな対応が必要だと考えています。

(参加者)

ワークショップでも、病院やコンビニが近くにないといった話題はずいぶん出ています。すべてをすぐには解決できませんが、一つずつ取り組んでいきたいです。

(参加者)

「山島の明日を考える集い」で、総理大臣表彰を受けた福井県あわら市のボランティアグループ会長に講演していただきました。活動の密度や頻度の高さに感銘を受け、この地区でもやりたいと思い皆さんに声をかけました。

草刈りが得意な人が多い地区なので、呼びかけたところ 80 人以上が集まりました。外部の良い事例を取り入れるきっかけになったので、今後もそうした機会は必要だと思います。

(参加者)

山島地区に来て 10 年以上になりますが、コミュニティセンター行事だけでなく、夏祭りや「ふれあい山島」という交流企画、地区の体育協会の大会など、年間を通してさまざまな行事があります。それらを通じて多くの人と交流できるのが、この地区の良いところです。

(参加者)

私も移り住み、町内役職や体育協会、青年部を経てコミュニティセンター企画部に入りました。以前はこうした役職に就くイメージがなかったのですが、山島地区は人のつながりが多く、地区の仲間として付き合うからこそ、他の団体や取り組みにも関わりやすい土壤があると感じます。

(市長)

地区ならではの良さは、外から来るとより感じるのでしょうか。人口減少を見ると心配になるのですが、組織がしっかりしていることは、将来を担う人材確保に役立つと思います。

(参加者)

私は公民館委員から青年部に入り、お祭りや町内会長会などで育ててもらいました。しかし、最近個人の幸せを大切に、地域の交わりを得意としない方が増えている時代だと感じます。つながりたい人とだけつながりたいという人が多くなっている印象です。

以前の先輩方は50歳前には次の代へ引き継いでいました。50代の私がまだ現役でやっている現状を見ると、人材不足を痛感しますし、今後への不安もあります。

(市長)

先日の大分県の大火事や、能登半島地震でも、日ごろからの地域コミュニティでの声かけが避難につながった事例がありました。個人の幸せを重視する風潮の中で難しさはあるかもしれませんが、山島地区で防災訓練などに積極的に取り組んでいただいていることなども、とてもうれしく思います。

(参加者)

山島地区は特に高齢化が進んでいると聞きます。上の世代の方はよく「若い者に任せたい」と言われますが、今までの活動をつなぐためには、若い人に伝え、教えていくことが大切です。任期が終わったから参加しないのではなく、どんどん参加して、昔の話も含め、良かった点も悪かった点も伝えてもらえれば、下の世代につないでいけるのではないかと常々思っています。

◆ 交付金事務が複雑で負担を感じています

◆ 社会教育バスでETCが使えるようにしてほしいです

(参加者)

地域コミュニティ協議会の事務局を担っていますが、交付金や決算の入力方法が複雑で細かいので、もう少し簡素化してほしいです。生涯学習に加え、防災や環境美化など業務が増えており、事務処理も増えると2人の職員では負担が大きくなっています。

また、生涯学習活動の「遊学サロン」などで市の社会教育バスを利用していますが、時間と距離の制限があります。近年、美川や小松インターなどがETC専用となり、現状のバスでは利用できません。ETCが使えないため遠回りが必要になり、行ける範囲が狭まってしまう。今後も専用インターは増えると思うので、市でバス用のカードを作り、精算後に各地区へ請求するなどの対応をお願いしたいです。

(市長)

ETC カードやクレジット払いの件は他でも話題になります。事務処理の簡素化についても、公金の支払いなので複雑になりがちですが、良い方法がないか検討していきます。

せっかく良い取り組みをしていますが、事務面などでやりづらいと二の足を踏んでしまうこともあると思います。地域づくりのためには、思い切ってやれることはやっていかないとけないと考えています。

(協働推進課長)

社会教育バスにも ETC 車載器が設置されたところですが、利用については支払いなどのルールを定める必要があり、今後調整していく予定です。

交付金の事務処理につきましては、関数や数式などを活用した入力シートを使用することで、作成に要する時間を可能な限り短縮するよう努めています。

市費での運用となるため、どうしても一定の制約や条件があることに加え、入力シートを導入してまだ間もなく、コミュニティセンター職員の皆さんには不都合を感じることもあるかもしれませんが、改善可能な点につきましては、引き続き精査のうえ対応していきますので、今後ご意見をお寄せください。

- ◆ 行事や役職のハードルを下げ、より参加しやすくなればいいと思います
- ◆ 個人の幸せが優先される時代ですが、災害等の際には地域に頼らざるを得ないという意識を浸透させる方法を模索していきたいです

(参加者)

こども園の役員は基本 10 名程度ですが、少子化もあり集まりづらくなりました。アンケートで募集しても希望者が年々減っているため、任期を 2 年から 1 年に短縮して何とか集めました。

山島地区の行事や役職についても、人によっては参加しづらいイメージを持つ人も多いので、参加のハードルを下げ、より参加しやすい形を作ることが大事だと思います。

(市長)

小中学校の PTA 役員も難しくなっています。かつては加入が当たり前でしたが、現在は強制ではなく、県 PTA 連合会を解散する県も出てきました。「なぜやらないといけない

のか」という声が増え、ボランティア活動への疑問も聞かれます。白山市全体がそうとは思いませんが、将来的には考えなければなりません。

そういう意味でも地域コミュニティ組織は必要です。先ほどは世代間交流の話題もありましたが、課題について、解決策などの意見は出ますか。

(参加者)

世代間交流の施設を作ってほしいという意見はありました。ただ、根本的な少子化問題があり、施設を作っても近隣に子どもがいなければ意味がありません。宅地造成などで若い世代が入ってきて子どもが増えた際に、地域で温かく見守れるような施設があればと思います。昔のグリーンパークのように、子どもが集まり親御さんも交流できる場所ができれば、地域全体の雰囲気も良くなる気がします。

(市長)

児童センターは山島台の中にありますよね。

(参加者)

そうですね。親御さんはともかく、子どもは使っているように思います。

(市長)

人口推移を見ると、合併当時は 3400 人いましたが、今は 2800 人と減少しています。松南小学校の子どもも少しずつ減っている状況です。

(参加者)

入学式に行っても今年は 2 クラスぎりぎり、今後は 1 クラスになる状況です。

(参加者)

先ほど個人の幸せが優先される時代となっているという話をしましたが、火事や地震など、何かあった時に地域に頼らざるを得ない状況は必ず起きます。そういう可能性があるという意識を、地域全体に浸透させる方法を模索することが大切だと思います。

(市長)

地域コミュニティ組織での行事などを通して集まり、顔を覚え、交流することは今後も必要でしょう。それができる施設があれば確かに良いと思います。

山島地区は、この会議も含め、さまざまな世代の方が参加して活動している様子で、大変すばらしいと思いました。課題は多く、すぐには解決できませんが、地域コミュニティ組織として課題を出していただきながら、市としてもしっかり対応していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。